

学 位 論 文 要 旨	
氏 名	前田 藍
題 目	遠隔園芸産地における安定生産および集出荷システムに関する研究 ( Research on Stable Production and Logistics Systems of Production Areas Distant from Markets )
<p>大規模小売業者など川下主導で園芸製品のサプライチェーンが確立される中で、産地には定時・定量・定品質の供給を実現するための計画出荷の精緻化が求められるようになってきている。これまでの園芸産地では面的に連続性のある地縁関係に基づく共販組織を基盤として計画出荷に取り組んできたものの、農協の広域合併と急速な労働力の弱体化によって共販体制の維持が困難になりつつある。そのため園芸産地では生産者が分散する中でも精緻な計画出荷に対応しうる新たなシステムを構築することが課題となっている。</p> <p>沖縄県小ギク産地は、園芸産地が現局面で抱える課題に早くから対応している先進産地である。それが実現できた要因は主に次の2点である。第1に、島嶼性に由来して生産者が分散する状況下でも品質の揃った小ギクの計画出荷を可能にしたことである。第2に、①切り花としての高鮮度での供給、②旧盆、彼岸、年末等の物日の大量需要への対応、③消費形態に合わせた赤・白・黄3色の同量ずつの供給が求められ、園芸品目の中でも精緻な計画出荷が要請される小ギクの安定供給を可能にしたことである。</p> <p>そこで本論文では、沖縄県産小ギクの約5割を取り扱う沖縄県花卉園芸農協を事例として、市場遠隔産地であるにもかかわらず、生産者の分散性を抱える中で、精緻な計画出荷を可能とした生産および集出荷システムについて実証分析に基づいて明らかにした。</p> <p>具体的に明らかにした内容は主に次の3点である。第1に、地域ごとに支部を組織し、これを基本単位として産地全体の作付けを管理することにより、生産者が広域に分散する中でも品質を揃えた大ロットの小ギクを計画どおり出荷することが可能となっている。農協の営農指導員は、販売計画に即した作付計画を作成するために支部単位で組合員と細かい調整を重ねるだけでなく、計画どおりの出荷につなげるために作況を的確に把握し、電照の消灯時期の統制などを行っているのである。</p> <p>第2に、台風襲来による生産変動への対応として、海外子会社の設立による種苗調達システムを構築するとともに、低コストで導入できる平張施設の普及を図っていることである。前者によって組合員の自家育苗が破綻した場合でも迅速かつ確実に種苗を確保でき、後者によって栽培期間中の暴風被害を抑えることができるため、ほぼ計画どおりの生産・出荷が可能となっているのである。</p> <p>第3に、船舶輸送と航空輸送という速度の異なる2系統の輸送手段を併用した集出荷システムを構築することにより、計画出荷をさらに精緻化していることである。低コストで大量に輸送できる船舶輸送を基本としながら、計画よりも開花時期の遅れた品種については高速輸送できる航空便を利用し、消費地市場への着荷時点で3色の品揃えを完成させているのである。</p>	